

北会津各地区の由来



今和泉の板碑

上・中・下荒井

上・中・下に分かれています。葦名氏の一族荒井氏が七代葦名直盛公とともに三浦半島の油壺・荒井出身だったことに由来します。下荒井には、今の荒館小学校の南に五重の塔が建てられていました。会津では、五重の塔は湯川村の樽川にもありました。中荒井には大正末に作られた時計台があります。

蟹川

大川を蟹が歩くように横歩きで渡ったことに由来します。「蟹川大根」が今では有名。

真渡

「真渡瓜」の産地。清水が多く、養鱈業が営まれました。渡し舟が西光寺の床下に保存されています。

礫

この地区では、子供の神様が杉の木に登り、下にあった井戸に落ちたことから、屋敷に杉の木は植えない。

鈴瀨

平安時代末、神指の高瀬を訪れた金売吉六が応湖川で溺れ、その時持っていた鈴がこの地区にたどり着いたので鈴瀨という。

中里

北会津の中心にある郷(里)のため中里とされたとされていますが、小笠原長時一族の中里氏に関係します。

石原

石仏と柳原を合わせ石原というが、小笠原長時一族石原氏が住んでいたため名付けられました。

田村山

戦国時代に田村山氏が住んでいたことに由来します。

安良田

荒田が変化したもので、戦国時代に新たに開田された集落です。

宮ノ下

上ノ台と呼んでいましたが、火災や伊達政宗の進攻で焼かれ、八幡神社の下に集まったためです。

館

田村山氏の分家が館を築いたためです。

出尻

端のところを「尻」といい、蓼川の清水が出るところを意味します。

和泉

諏訪神社境内、榎の根元に酒の出る泉があった。

白山

白山沼の北側に白山神社が祀られていたためです。

二日町

葦名時代に二のつく日に市が開かれたためです。

花火の産地でしたが、昭和二十五年の爆発で一人が死亡したため生産はしていません。

麻生

柳津町の麻生から移ってきたもので、新井田氏も麻生から来ました。

今和泉

良い泉があったことに由来します。鎌倉時代の板碑があります。

寺堀

寺の周りに堀がめぐらされていたためです。

鷺林

鷺が棲む林があったためです。一条家と荒川家は豆まきをしません。

宮袋

宮の周りを袋のように囲った川があったためです。イチゴの産地。

本田

古くは本多と呼んでいました。

十二所

鎌倉から十二所権現を移し、祀ったことに由来。米塚

中新田

旧河川に新田を開いたため。

下野

上荒井の荒井氏の下ノ館があったためです。

金屋

鉄づくりの集団がいたため。

後庵

戦国時代に後庵という比丘尼が棲んでいたため

新在家

在家の仏教徒が棲んでいたため。

松野

喜多方市の松野が地震で住めなくなり移ってきたことに由来。

両堂

不動堂と太子堂の二つの堂があったためです。

小松

小松一族が住んでいたためです。

天満

彼岸獅子で知られています。

大島

神指の天満から神指城築城時に移ってきたためです。

柏原

鶴沼川に囲まれ、大きな島のようだったため。

柏原

柏の木が多くあったため。



